



元気とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年01月10日 第1100号「週刊五十嵐レポート」

## 五つの眼

1月4日の日経平均株価は昨年末比377円安の2万5716円。国際通貨基金(IMF)の専務理事の話では、23年は世界経済の1/3が景気後退に陥り、厳しい年になるとのこと。今年も楽観的にはいかないようだ。但し、景気と経営は別ものであり、個々の企業の経営努力によって経営はより良くなっていく。

1月5日付日経新聞、コラム「私見卓見」では、5つの眼の話があった。

一つ目は、ひたすら現場を見守る「虫の眼」。二つ目は、全体を俯瞰(ふかん)する「鳥の眼」。三つ目は、時代の潮流を知覚する「魚の眼」。四つ目は、さかさまから見たり、様々な角度からチェックを入れたりする「コウモリの眼」。そして五つ目は、自分自身を見つめる「内省の眼」。

一つ目、二つ目の眼は静止的な視点、三つ目は動態的な視点、四つ目は批判的な視点(または顧客の視点・競争相手の視点)。これら四つは外界を見る眼。五つ目は自分自身の内面を見る眼。外界を見る眼は、経験を積むことで視力は向上する。しかし自分を見つめる内省の眼は、年齢を重ねるごとに言い訳や自己弁護の靄(もや)がかかりやすくなり、真実の自分の姿を曇らせてしまいがち。

靄(もや)や曇りを防ぐにはどうしたらいいのだろう。筆者は稲盛和夫氏の言葉を引用している。「本当に伸びる人は素直な心をもって人の意見をよく聞き、常に反省し、自分自身を見つめることができる人」。「素直な心」が必要。

昨年円ドル150円まで行ったのが、日銀の対応の変化により、今年は円高に振られ、中国の「ゼロコロナ対策」の解除により、中国内は感染増と世界中の往来が自由になりつつある。いろいろな兆しが見えてきた。

自社を取り巻く環境を「虫の眼」「鳥の眼」「魚の眼」「コウモリの眼(顧客の視点・競争相手の視点)」で把握する。自社の取るべき対策を「内省の眼」で構築していく。性格は変わらないが考え方は変えられる。変化の激しい時代に五つの眼で対応する。従来と違った考えを取り入れることもある。

「素直な心」と「直観力」、そして「実行力」で対応していきたい。

ちょっと  
気になる出来事

1月8日付日経新聞、「日本の酒 国際化1合目」という記事。日本で造った酒の輸出が伸びている。2021年は前年比1.6倍の1147億円と初めて1千億円を突破。22年も10月までの累計で1170億円と既に21年を超えた。

日本食ブームも背景に酒類の輸出は10年で6倍、牽引役はウイスキーと日本酒。ウイスキーは21年の輸出額が461億円と前年比1.7倍、日本酒は402億円と前年比1.7倍。

但し、世界の背中は遠い。国連の統計で21年の輸出額では、フランスは197億ドル、イタリアは109億ドル、イギリス89億ドル、日本は10億ドル。日本はフランスの約1/20。

フランス、イタリア、イギリスは強者。日本は弱者中の弱者になる。当然のことながら、戦い方が違う。フランス、イタリアのやり方をマネしてはいけない。

重点主義、集中主義、各個撃破主義で地道に伸ばすしかない。日本のお酒、サッカー同様に期待しましょう。



一口メモ  
知識

## 旅に出る

旅(りょ)は少しく亨(とお)る。

「旅」は旅に出ることであるが、現代の旅行とは異なり、古代は交通手段もなく、旅は不安と危険を伴う辛いものであった。

これを現代の状況で考えるならば、やむなく人の家で世話になるとか、出張・赴任等にあたる。

「少しく亨(とお)る」とは、大きなことを望んで旅に出るのでなければ、無事であるという意味。つまり、行き先で多くを望まなければ、普段なら当たり前のことでも、有り難いと思えるものだという事。

「易经一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榎五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

